

# ヒナカマキリとヒメカマキリの京都市における最近の記録

中尾史郎\*

Recent records of *Amantis nawai* and *Acromantis japonica*

(Insecta: Mantodea) in Kyoto City

Shiro NAKAO\*

**要旨**：京都府下での分布確認記録が少ない樹林性の小型のカマキリ2種について、京都市における最近の採集と撮影の情報を記録した。京都府要注目種のヒナカマキリは2014年9月に左京区の京都府立植物園で撮影されており、同準絶滅危惧種のヒメカマキリは1998年10月に北区の大悲山林道で採集されていた。

**キーワード**：京都府立植物園、大悲山林道、京都府レッドデータブック、ヒナカマキリ、ヒメカマキリ

(2022年9月30日受理)

## 緒言

カマキリ目 Mantodea は前脚と頭部の形態が特徴的な昆虫として一般的によく知られ、本州には成虫の目視認識が容易な9種が記録されているにすぎない(日本直翅類学会, 2016)。近年、京都府とその周辺においてはウスバカマキリ *Mantis religiosa* (Linnaeus, 1758) (カマキリ科 Mantidae: カマキリ亜科 Mantinae) の近年の採集記録が少ないことが懸念されているが、過去の生息場所や目撃情報、ならびに証拠標本などに関する定量的な情報の存在は公表されていないように思われる(島田, 2020)。ウスバカマキリは2002年版および2015年版の京都府レッドデータブックでは「要注目種」とされているが(京都府, 2015)、兵庫県(2012)、大阪府(2014)および奈良県(2016)では「絶滅危惧 I類」ランクに選定されている。野生生物の生育・生息に関する定量的な情報の欠落は、環境変化や鳥獣虫害に関する情報を共有し、適切な土地利用による資源管理を実践する上で問題発生の要因となる。

京都府レッドデータブックに掲載されているカマキリ目の種には他にヒナカマキリとヒメカマキリがある。ヒナカマキリ *Amantis nawai* (カマキリ科 Mantidae: ヒナカマキリ亜科 Amelinae) は府内において京丹後市のみが確実な生息地として公表されている「要注目種」である(京都府, 2015)。本種は翅が痕跡的で飛翔できず、成虫の体長が約15mmと本邦産カマキリでは最小で、かつ樹林生息種のため(竹内ほか, 2012)、生息場所の断片化や疎林化・乾燥による個体群消失が懸

念される。本種は主として照葉樹林の林床に生息し(日本直翅類学会, 2016)、兵庫県(2012)では準絶滅危惧類に、奈良県(2016)では希少種に指定されている。ヒメカマキリ *Acromantis japonica* (ハナカマキリ科 Hymenopodidae: ヒメカマキリ亜科 Acromantinae) は樹上や林縁に見られる樹林地(主に樹上)性の種で(日本直翅類学会, 2016)、府内では京都市と相楽郡での確認情報のみが言及されている「準絶滅危惧種」である(京都府, 2015)。

これら2種の樹林地性のカマキリは、草地性の(京都府)要注目種ウスバカマキリと同様に、府内における生息状況が不明な状況にあると思われる。京都府レッドリストの更新改訂作業にあたり、京都府立大学の収蔵標本と電子情報を確認したところ、左京区におけるヒナカマキリの記録、および北区におけるヒメカマキリの標本を確認したので公表する。

## 記録

### ヒナカマキリ *Amantis nawai* (Shiraki, 1908)

撮影者：木谷友子・丸毛恵梨香(筆者同行確認)、同定者：中尾史郎

撮影場所：京都市左京区半木町 京都府立植物園内(図1)

撮影期日：2014年9月30日

学生約10名とともに植物園を散策して昆虫と植物の観察を行っていたところ、森林科学科の当時学生2名がアスファルトで被覆された園路上を歩行中の1個体を3ショット以上撮影した(図1)。筆者は2017年と2021

\*Graduate School of Life and Environmental Sciences, Kyoto Prefectural University  
京都府立大学大学院生命環境科学研究科

年の9月に京都府立植物園を再訪探索したが発見できなかった。

#### ヒメカマキリ *Acromantis japonica* Westwood, 1889

採集者：鴨志田徹也，同定者：中尾史郎

採集場所：京都市北区大悲山林道(図2)

採集期日：1998年10月28日

応用昆虫学研究所蔵標本から1個体を筆者が発見した(図2：筆者撮影)。採集者は当時大学院農学研究科の修士課程学生であった。



図1. 京都府立植物園(左京区)のヒメカマキリ



図2. 大悲山林道(北区)のヒメカマキリ

#### 結言

採集と同定が容易であるにも拘わらず、京都府における確実な記録(証拠標本と公表報告文)が少ないと考えられる樹林性カマキリ2種の京都市における近年の記録を公表し、府下の樹林地環境と生物相が注目され、確かな記録の今後の集積が促されることを期待したい。なお、樹林地の踏査によって「不在である」ことを確認した情報も、個体群の動向や環境の変化を把握する上では不可欠な、価値ある情報であることに留意されたい。それは、京都府下における2種のニッチや分布地域の相違を理解する上でも有益と思われる。なお、京都市からはサツマヒメカマキリ *Acromantis satsumensis* Matsumura, 1913 も記録されている(今邑, 2021)。

#### 謝辞

本報告にあたって写真の撮影と公開を快諾くださった丸尾恵梨香氏と木谷友子氏、ならびに情報確認に協力してくださった本学森林科学科の上田正文博士に心より御礼申し上げます。

#### 引用文献

- 兵庫県(2012) [https://www.kankyo.pref.hyogo.lg.jp/environment/leg\\_240/leg\\_289/leg\\_709#chapter5](https://www.kankyo.pref.hyogo.lg.jp/environment/leg_240/leg_289/leg_709#chapter5)(2022年9月閲覧)。
- 今邑宏樹(2021) サツマヒメカマキリを京都府(京都市)で採集。きべりはむし 44: 98-99.
- 京都府(2015) 京都府レッドデータブック 2015第1巻 野生動物編, 京都府自然環境保全課. 503 pp.
- 奈良県(2016) <https://www.pref.nara.jp/secure/178458/redlist2.pdf>(2022年9月閲覧)。
- 日本直翅類学会(編著)(2016) 日本産直翅類標準図鑑, 学研プラス. 384 pp.
- 大阪府(2014) <https://www.pref.osaka.lg.jp/attach/21490/00148206/6.konchu.pdf>(2022年9月閲覧)。
- 島田直人(2020) ウスバカマキリの京都府からの初記録。きべりはむし 43: 61-62.
- 竹内将俊・腰塚祐介・行政邦彦・稲垣仁太・加藤 聡(2012) ヒノキ植林地におけるヒメカマキリの産卵場所と生活史. 東京農大農学集報 57: 216-221.